

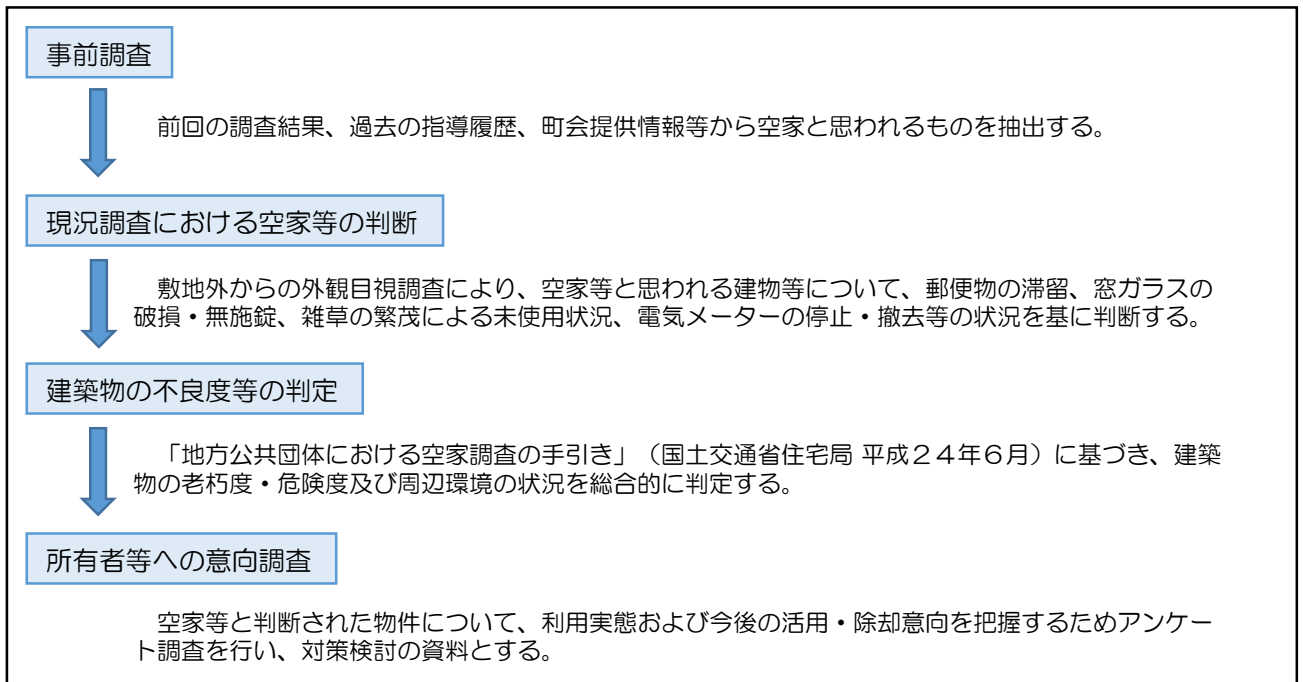
空家等の実態調査

平成28年度及び令和2年度に市内全域を対象として実施しましたが、時間の経過に伴い、所有者情報や解体状況など実態と相違が生じることから、空家等対策の円滑化、適正化を図るため、令和6年度に再調査を実施しました。

調査対象

居住や利用の様子がない一戸建ての住宅・附属建築物等
 ※過去の実態調査において判明した空家等及びその後増加した空家等と思われるものについて現況を調査し、適切に管理されているものは、今回の実態調査から除外しました。

調査の流れ



空家等のレベル別内訳（年度別）

（単位：件）

	0	1	2	3	4	5	6	判定不能	合計
H28	157	3	178	46	13	42	15	11	465
	33.8%	0.6%	38.3%	9.9%	2.8%	9.0%	3.2%	2.4%	100%
R2	111	1	182	48	8	40	27	—	417
	26.6%	0.2%	43.7%	11.5%	1.9%	9.6%	6.5%	—	100%
R6	179	1	208	51	10	44	28	—	521
	34.4%	0.2%	39.9%	9.8%	1.9%	8.4%	5.4%	—	100%

【レベルの説明】

- レベル0…老朽化が全く進んでおらず、修繕の必要がない建物
- レベル1…老朽化は進んでいないが、基礎や屋根等、一部に課題が残る建物
- レベル2…老朽化は進んでいないが、外壁や屋根等、一部に修理が必要な建物
- レベル3…老朽化が進み外壁や屋根等の破損が目立つため、一部修理が必要な建物
- レベル4…老朽化が進み暴風発生時等、部材飛散のおそれがあるため外壁や屋根等、修理が必要な建物
- レベル5…老朽化が著しく、豪雪時などに倒壊の可能性がある建物
- レベル6…全半壊し瓦礫が放置されているため、暴風発生時等、瓦礫飛散のおそれがある建物

（令和7年3月時点）